

質問要約

県立鴨方高等学校

土木 1 用水路の安全対策について

県にはたくさんの用水路があり、転落事故がたびたび起きているが、用水路に安全柵が付いている所は少ないと聞いており、柵以外の安全対策も進んでいないように感じる。

他県ではフェンス等の設置や溝への蓋がけへの一部補助や、危険箇所の点検と広報啓発活動を強化するなどの安全対策を実施している。

県として、用水路転落事故の実態をどのように把握しているのか。また、危険な場所の安全柵設置や補助制度の創設をしてほしいと思うが、今後どのように進めていくのか、併せて土木委員長に伺いたい。

県立倉敷南高等学校

総務 1 南海トラフ地震に対する防災・減災対策について

県は、県民に対して防災ポータルなどで地震や津波の情報を提供しているが、全ての県民がいつでもどこでもアクセスできるものではなく、在留外国人には地震対策などの情報は届いていない。災害に対する防災・減災対策を周知するために具体的にどのような施策を進めているのか。また、学校の体育館など冷房設備が設置されていない避難所の熱中症対策や備蓄している食料や生活用品等の状況はどうか。加えて、地域ごとのハザードマップを県で統一する計画や、被災した外国人への対応の計画はどうか、併せて総務委員長に伺いたい。

県立和気閑谷高等学校

環文 1 介護人材の確保について

保福

本県の介護職員は令和22年には約4,400人不足することが見込まれるが、現在、介護福祉士として登録している人のうち、実際に介護職員として働いている人は全国で5割程度にとどまっている。就労状況調査によると、若者の中では介護職について、やりがいのある仕事など肯定的なイメージがある一方、将来に不安があるといったマイナスイメージがある。介護の仕事の魅力を広く発信することや潜在的な介護人材の掘り起こしなど、介護人材の確保にどう取り組むのか、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

環文
保福

2 介護資源の地域格差の現状等について

介護職員の不足については、県内の高齢化が進む地域でより深刻な問題になる可能性があり、高齢化が進んでいる地域の上位には、和気町をはじめ高梁市、久米南町、新庄村等が挙げられるが、それらの地域は1か所に集中せず散らばっているため、全ての高齢者に福祉が行き届いていないことが考えられる。介護資源の地域格差に対する県の現状と今後の取組について、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

環文
保福

3 介護者の孤立防止対策等について

老老介護によって起こり得る問題は大きく3つあり、家族の共倒れ、介護にかかる時間の増加、介護者の社会的接点の減少と閉じこもりだ。介護者の体力や精神的な負担が増すと、うつ病や認知症を誘発し、介護放棄や虐待などのおそれもある。このような状況下にある人々を適切な支援につなげていくことが大切だが、介護者の孤立防止対策や負担軽減にどう取り組むのか、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

県立倉敷青陵高等学校

産労
警察

1 自転車の交通安全について

自転車関連事故の抑止を図るためには、自転車利用者が交通ルールを遵守すべきだが、交通安全意識の醸成のため、今後どのような取組をするのか。また、高校生の交通違反や交通事故を防止するための取締り以外の対策はいかがか。さらに、岡山市では自転車通行空間の整備が進んでいるが、今後、県全体で普及する予定はあるか、併せて産業労働警察委員長に伺いたい。

産労
警察

2 観光地における交通規制等について

美観地区には車両規制があるため基本的に車両は通行しないが、地区内の住民や店舗関係者はその限りでなく、多くの歩行者を避けながら運転しており危険である。今後、美観地区のような観光客数が増加する場所において、自動車に限らず、新たな交通規制の制定を検討してはいかがか、産業労働警察委員長に伺いたい。

創志学園高等学校

農林 1 岡山発オリジナル品種の開発等米の気候変動対策について

一昨年の猛暑は稲作に深刻な影響を及ぼし、米の品質低下と収穫量の減少から供給不足となり、需給バランスを崩した。こうした中、水田農業の持続的な発展には、高温に強く、おいしさとブランド力を兼ね備えた県オリジナル品種の開発と併せて、生産から販売までを見据えた総合的な支援体制を構築し、農家が安心して農業を続けられる環境を整備すべきだ。この「岡山発オリジナル品種の開発」を含めた米の気候変動対策について、どう取り組むのか、農林水産委員長に伺いたい。

農林 2 水田農業の担い手確保策について

米づくり農家は後継者が見つからず、農業機械は高額で、スマート農業は大規模農家には有効でも零細な農家にとっては導入コストが高く現実的ではない。農業で生活するには、10ヘクタールの水田を持つ必要があり、地域では水田を借りる農家が増えている。地域ぐるみで水田農業を継続できるよう、集落営農の育成支援や法人化の推進、若手就農者への初期投資助成の拡充など、水田農業の担い手確保策をどう強化するのか、農林水産委員長に伺いたい。

専修学校自由高等学院

文教 1 不登校対策のメタバース活用について

不登校児童生徒数が令和3年から5年の間で1,261人増加している。県の対策として、「まんまリンク」というメタバースを活用した先進的な取組があるが、利用者は37人と極めて少ない。不登校で悩む児童生徒や保護者に、「まんまリンク」を含めた多様な支援に関する情報が自動的かつ確実に届く仕組みづくりが重要であり、情報発信の強化に努めてほしいがどうか。また、「まんまリンク」の利用率を向上させるため、不登校児童生徒の参加を継続させるためのコンテンツの魅力向上や他自治体との連携強化による広域的な交流機会の創出など、新たな取組が必要だがどうか、併せて文教委員長に伺いたい。

県立玉野高等学校

総務

1 過疎地域の対策について

本県では、結婚や出産等の支援を強化することで人口増加を目指しているが、この取組だけでは、都市部と過疎地域の人口格差の解消につながらない。また、昨年の県内の20歳から24歳までの転入者数及び転出者数がともに世代別で最多であったことから、若者世代に焦点を当てた、人口の社会増につながる施策が必要だ。県外から過疎地域へ進学する者への学費補助や過疎地域へ就職する者への生活費や家賃の補助、また、転出者を減らすため、家賃や生活費の補助が有効であり、県、市町村及び大学などが分担して行ってはどうか。この提案を踏まえ、過疎地域に対する対策案、過疎になりそうな地域の対策案について、総務委員長に伺いたい。

総務

2 外国人との共生について

現在、在留外国人数が大きく増加する中、本県でも、日本語教室への支援など様々な取組が行われているが、日本語教室の質と数のばらつきや地域での生活に困難を感じていることなどが課題として挙げられる。課題解決のために、学校行事等を通じた外国人との交流行事などを開催すべきだ。これにより、外国人は実用的な日本語を学びつつ、地域や日本文化をより理解することができる。県として、外国人との共生のための総合的な支援戦略を作る考えはあるか、また具体的にどのような課題解決に取り組むのか、併せて総務委員長に伺いたい。

県立津山東高等学校

環文
保福

1 野焼きによる大気汚染と岡山県の課題について

県では、PM2.5の環境基準達成率の改善のため、稲わらを焼かずにすき込むなどの有効利用を推進する「晴れの国ブルースカイ事業」で周知等を図っている。引き続き実効性のある取組が必要と考えるが、今後、どのように取り組むのか。また、こうした取組はSDGsにもつながっており、地域ぐるみで環境への意識を高めるきっかけにもなっていると考えますが、地域住民や子供たちが環境問題について学び、行動できるような啓発活動等をより一層充実させてはいかがか、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

県立倉敷古城池高等学校

産労
警察

1 県内での雇用の創出を促す取組について

県では、人口が岡山市などの都市部に集中し、県北部では人口減少が深刻化している。地域の活力を維持回復していくためには、若者に選ばれるよう県内の雇用をより良質で魅力ある環境にしていくことが必要で、地元企業との協力や情報発信の仕組みが必須だ。県では、県外の大学と、県内への就職促進の協力を行う就職支援協定を締結しているが、この協定は、都市部だけでなく、人口減少地域への人材還流につながっているのか。また、人口減少地域での良質な雇用の創出に関する政策や取組は検討されているのか、併せて産業労働警察委員長に伺いたい。

県立岡山東商業高等学校

農林

1 岡山県産桃のPR・販路拡大について

岡山県はくだもの王国といいながら、桃やブドウの収穫量は山梨県を筆頭に大きく水をあけられている。授業で規格外の桃を使ったスイーツを考える企画に取り組んだことで、県産品である桃の良さを再発見し、このおいしさを全国や世界にもっと広めたいと考えるようになった。PRだけならSNS等で高校生でもできるが、持続可能な取組とするためにも公的機関による仕組みづくりが大切だ。「富士山といえば日本」のように「桃といえば岡山」と全国や世界に言わせるため、県としてどのようにPR・販路拡大するのか、農林水産委員長に伺いたい。

県立高梁高等学校

土木

1 道路整備について

(1) 道路整備について

私たちが生活する地域では、落石や倒木が道路を塞いでいたり、電線に木の枝が掛かっていたり、植物が過剰に生い茂っているが、整備が追いつかず、危険な箇所が放置されている現状は看過できない。山間部の道路現状をどの程度把握し、安全を確保するためにどのような対策を進めているのか、土木委員長に伺いたい。

土木 (2) 落石防止対策について

「落石注意」と書かれた看板を多く見かけるが、看板だけで、落石を防ぐためのネットや柵が設置されていない箇所が多いのが現状だ。危険箇所に対して落石対策工事などの具体的な整備計画を策定しているのか、策定の予定がない場合、今後どのように対応していくのか、土木委員長に伺いたい。

土木 (3) 地域間の対応差について

地方の道路に対してもより迅速に対応できる体制や、市町村ごとの危険箇所を優先的に整備できる仕組みづくり、県民からの通報をスムーズに反映できる制度の導入なども検討してほしいが、現状把握と今後の取組や計画的な点検・補修の頻度、優先順位の付け方について、併せて土木委員長に伺いたい。

中国デザイン専門学校

1 デジタルやネット文化と体を動かす活動をつなげる施策等について

環文 (1) 現在の実施・検討状況

保福

私たち高校生や若い世代は、生活も遊びもスマホやネットで行うのが当たり前だ。一方で、体を動かす機会が少なく「健康な体力」を身に着ける意識が薄れている。スマホとウォーキングを組み合わせた仕組みなど、若者が興味を持つ取組が必要だが、デジタルやネット文化と体を動かす活動をつなげて健康的な生活習慣を定着させる施策について、現在の実施・検討状況を環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

文教 (2) 児童生徒が主体的に参加できる新しい体力づくりについて

高校生や若い世代の体力が年々落ちているのは、生活スタイルや社会の変化が大きく関わっており、私たちが行ったアンケートでも、体を動かす時間がとれないという声が多くあった。スマホやネットが当たり前の手元にある現代では、学校で、デジタル技術を活用しながら児童生徒が主体的に体力づくりに取り組んだり、自然と体を動かすことの楽しさを実感できる事業の展開が重要だがどうか、文教委員長に伺いたい。

県立井原高等学校

総務

1 選挙の投票率の向上について

若者の投票率は依然として低い状況にある。せっかくの権利を生かしておらず、政治への関心低下の点でも問題だ。投票率の低下には、様々な要因があるが、投票によるメリットが不足していることも一因だ。投票済証明書等をクーポン代わりに登録店舗で特典等が受けられる「センキョ割」を積極的に宣伝してはどうか。また、これを発展させ、県や市町村の公共施設の使用料を割引してはどうか。さらに、投票することで良いことがあると感じられる仕組みづくりが大切だが、投票率の向上に向け、今後どのような取組を行うのか、併せて総務委員長に伺いたい。

岡山市立岡山後楽館高等学校

総務

1 災害時における障害のある方への避難支援について

障害のある方の避難に対する地域住民の協力を増やすには、日頃の交流と情報の共有が欠かせないが、県は、支援が必要な方の人数や必要な支援をどのように把握しているのか。その情報を地域の住民が知る方法があるのか。また、障害の有無にかかわらず、支援が必要な方と一緒に地域住民全員が参加し、避難する方法を考える避難訓練を実施してはどうか、併せて総務委員長に伺いたい。

環文
保福

2 災害時サポートブックの活用促進に向けた取組について

「災害時サポートブック 私の避難プラン」では、障害のある方やその家族が、身近な人の支援のもと、一人ひとりに応じた避難行動計画を作成するようになっている。市町村や障害者施設などにおける活用状況、活用についての課題、活用促進に向けた取組について伺いたい。また、高校生や一般の人もサポートブックの存在を知っておくことで、災害時に支援できることが増えるが、一般市民への広報などの取組はあるか。さらに、避難行動要支援者を支える一員として高校生は何から始めればよいか、併せて環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

金光学園高等学校

産労 1 「岡山ルール」の根絶と交通事故防止の取組について

警察

インターネットなどで「岡山ルール」と呼ばれる危険な運転マナーの根絶のため、警察官によるパトロールや街頭での取締りなど、どのような活動に取り組んでいるか。また、県内の交通事故件数は2019年からほぼ横ばいであるが、運転者に交通ルールの遵守を働き掛けるなど、交通事故防止のためできることがまだまだあるが、いかがか、併せて産業労働警察委員長に伺いたい。

産労 2 ラウンドアバウトの通行ルールの周知徹底について

警察

寄島町には中四国地方初のラウンドアバウトがあるが、通行ルールが浸透しておらず、危険な瞬間を何度も見た。通行ルールの認知度向上や指導について、どのような取組をしているか、産業労働警察委員長に伺いたい。

産労 3 SNSを使った闇バイト、特殊詐欺の対策について

警察

最近、SNSを使った闇バイトの勧誘、特殊詐欺などが全国ニュースでよく取り上げられているほか、警察官をかたる電話による特殊詐欺事件も頻繁に起こっているが、このような事件を未然に防ぐためにどのような対策を行っているか、産業労働警察委員長に伺いたい。

県立林野高等学校

農林 1 害獣被害対策について

野生鳥獣による農林水産被害金額は、県全体で3億円程度と依然として高い水準にあり、農家はせっかく育てた作物が食い荒らされたり、畑を荒らされたりする被害に頭を抱えている。害獣被害対策として、電気柵やわななどの設置によるハード面での対策が効果的とされているが、実際には柵を跳び越えたり、穴を掘って突破するなど、被害が減らない現状にある。美作市など中山間地域では、農業従事者の高齢化が進み、農業の担い手が減少しており、効果的な駆除活動の継続が困難になることが予想される。中山間地域での野生動物による農作物被害に対して、今後どのような具体的な対策を進めていくのか、農林水産委員長に伺いたい。

農林

2 ジビエの利活用及び狩猟者への支援等について

美作市では、獣肉処理施設「地美恵の郷みまさか」において、獣肉を加工処理している。被害をもたらすイノシシやシカを有害鳥獣駆除により捕獲し、その食肉を資源として活用することが地域のさらなる発展につながると考えるが、猟師の高齢化や危険度の高さなどから担い手不足が深刻な問題となっている。こうした現状を受け、ジビエの利活用を進めるためにどのような支援を行っているのか。また、狩猟者の担い手不足に対して具体的にどのような対策を進めていくのか、併せて農林水産委員長に伺いたい。

岡山理科大学附属高等学校

土木

1 通学路の整備について

見通しの悪い交差点で車が突然現れ、冷や汗をかいたことが何度もある。歩道が狭く、歩行者と自転車がすれ違うのもぎりぎりという場所もある。夜間になると街灯が少なく暗く、人けのない道を一人で歩く箇所がある。こうした危険な通学路を改善するため、見通しの悪い交差点において歩道を拡幅したり、ガードレールなど安全施設の設置や、街灯の増設が必要ではないか。地域住民や学校との協力による見守り活動や危険箇所の定期点検の強化も重要だ。子どもが安全に学校へ通えるよう、どのように通学路の整備を進めるのか、土木委員長に伺いたい。

県立岡山芳泉高等学校

文教

1 SNSやインターネットの利用について

SNSやインターネットは様々なメリットがある一方、デメリットも数多くあり、幼い頃から学校教育の中で十分な対策を講じる必要がある。インターネット上の誹謗中傷やいじめ等を未然に防ぐため、学校現場ではどのような教育を行っており、今後、どう取組を強化するのか。また、令和6年度のフィルタリングの設定率は、小学校51.0%、中学校51.7%、高校40.1%だが、この現状をどう考えるか。さらに、SNSでのトラブルや誹謗中傷の被害に悩む児童生徒がいた場合、県教委や学校にはどのようなサポート体制があり、児童生徒が安心して相談できる仕組みをどう整えているか、併せて文教委員長に伺いたい。

文教

2 ICTを用いた深い学びについて

授業や家庭学習では、タブレットなどのICTを頻繁に使用しており、使い方次第で大きなメリットをもたらす。これからの社会は、生成AIをはじめとするデジタル技術がますます発展し、これまで以上にICTをうまく使いこなすことが求められるが、県は、ICTを用いた深い学びを通じて高校生などのような力を伸ばしたいのか。また、県立高校におけるICTを効果的に活用した先進的な取組事例を紹介してほしいが、併せて文教委員長に伺いたい。